

原著

看護のアイデンティティー、その5：看護技術に関する 大学生と看護師の価値観の相違とその意味

工藤 二郎* 小田 日出子* 窪田 恵子** 中馬 成子**

〈要 旨〉

看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育することは看護大学の緊急な課題である。教育により学生達は看護職について習得し、その過程でさらに新しいアイデンティティーを獲得すると想像される。教育に役立つため、我々はこれまでに看護のアイデンティティーに関するキーワードのうち、看護職の資質、個人的行動、看護職に重要な社会生活の3つの範疇のキーワードについて看護師と学生の価値観の差について報告してきた。この第5の報告では、第4範疇である看護職技術に関する24キーワードについて学生と看護師の価値観の差について報告する。

相違を比較するのは入学経緯や教育環境が類似である本学1年生と卒業生の看護師の2集団である。学生と看護師の回答に基づき、彼女らが最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行い、1番から24番の各キーワードの得点を看護師と学生の2種類にデータベース化した。各キーワードの得点を看護師と学生の母数でそれぞれ除してこれを平均技術指数と名付けた。さらに、学生から看護師に変化したときの価値観の変化を明白にするため、「看護師技術指数」の「学生技術指数」に対する比を求めた。この操作により、看護師になることにより重要性が高まるものとして、疼痛を緩和する、患者第一に考え業務進行を二義的に、了解無しの行為をしない、非マニュアル的対応をする、などの語句が抽出された。患者第一に業務進行を二義的に、了解なしの行為をしない、の各キーワードは看護師での得点が高くかつ学生との価値観の差も大きかった。一方、学生は、集団の疎外から患者を守る、に看護師よりもかなり高い評価を与えていた。

看護師がことに高い点を与えた、患者を（こまやかに）観察する、医療ミスをしない、患者を見て（目を見て）話す、了解なしの行為をしない、患者第一に業務進行を二義的に、対話する、環境を整える（騒音、温度、光）、患者に理解できる言葉で話す、の8項目は看護教育の方法やカリキュラムに反映させるに適切な項目と考えられた。

キーワード：アイデンティティー、看護教育、看護大学生、看護技術、カリキュラム

欄外見出し：看護のアイデンティティー、その5

はじめに

看護職の総体を把握し、看護教育の理念と方法をその根拠の上に見出すことは看護大学にとって重要な課題である。根拠に基づいた教育により学生達は看護職について習得し、その過程で新しい時代に適合したアイデンティティーを獲得していくと想像される。我々はこの研究を、看護職が教育と臨床の現場でどう理解されているかを明確にすることから開始した。大学で学習している学生、また、臨床の場で活動している若い看護師の各集団が鋭い問題意識を持つと考えたから

である。

第1報から第4報により、我々は看護に関するキーワードの選択、質問表の作成、看護師としての資質や個人的行動、社会的行動について学生と看護師の間の重要度の差を報告した^{1)~4)}。この操作により、各範疇より看護職に重要と考えられる、おそらく真性のキーワードが選択されてきた。

本研究のようにキーワードを操作しながら看護の現実近づき、それを教育に役だてようとする研究は少なく、教育現場に生かされた例は調べ得た限りでは無い。しかし、方法として注目すべき報告が見られ、波

* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 教授

** 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 助教授

多野と小野寺⁵⁾、また河津と任⁶⁾らの研究は、キーワードかまたは短い語句、質問表などを操作して重要性を検討するという方法を用いており興味深い。得られた結果が興味深いものとして、石田ら⁷⁾による看護職の職業アイデンティティに関する研究では、役職者のアイデンティティの高値化の報告がみられ、島田⁸⁾による看護職アイデンティティの構造に関する研究では、看護職に就業直後にはアイデンティティの低値化が見られるなどが報告され、変化が明確にされた例として重要に思われる。さらに、加賀谷ら⁹⁾の新人看護師の社会的スキルに関する報告では、たとえば、患者にゆっくりとかかわることでは1年目看護師のスキルが高く、患者の状況を見通して看護することでは2年目の看護師のスキルが高いなどが報告されており、看護職を遂行中にも明らかな技術上の変化が見られる報告として興味深い。

我々の研究は上記の各研究とは目的と方法が異なっている。すなわち、本学の看護学生と本学卒業の看護師という関連の強い2集団を対象とし、この2つの集団間の変化を比較し、看護職の本質を探りながら学生の教育に役立てようとしている。

この第5の報告では、抽出された152キーワードのうち看護師としての看護職技術の範疇に属する24語句について、看護学生と臨床経験が1年を越えている看護師の価値観の相違を報告する。

方法

全キーワードの最初の抽出は看護学科1年生と編入

生の書いた小論文より行った。彼女達が医療概論の受講後、課したレポートの題は「医療や養護を担う看護師、保健師、養護教諭として心がけるマナーにはどのようなものがありますか。また、それはなぜ重要と思えますか。」であった。レポートの提出は76で、看護師として書かれたレポートは71であり、5人が養護教諭として書かれていた。当初のキーワード抽出は看護師として書かれた71レポートより行った。これらのレポートより抽出した152キーワードは、1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動パターン、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動パターン、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または職業倫理の5つに区分された¹⁾。今回の報告でも区分と属するキーワードは全く変えていない。

今回の分析はこの分類の第4範疇、専門的ないしは看護職特異的な技術の24キーワードについて行った。アンケートは本学の卒後1年目の看護師59名、卒後2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、また、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。

表1はアンケートの第4カテゴリーの部分と段階的な配点数を示している。すなわち学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていく方法である。これは重み付けにより、各概念の得点を強調し、真性のキーワードを抽出しやすくするための操作である。ここで、このカテゴリーをより簡潔に表わすため、このカテゴリーに「看護技術」という略名をつけた。

表1 アンケートの技術項目の部分と配点法

D. 看護技術項目

- 1) 非マニュアル的対応をする
- 2) 金品を受けない
- 3) 了解なしの行為をしない
- 4) 患者を良く見て(目を見て)話す
- 5) 対話する
- 6) 感染予防
- 7) 業務進行を二義的に(患者を第一に)
- 8) ナースコールに答える
- 9) 患者を(こまやかに)観察する
- 10) 椅子に座って話す(目の高さを合わせる)
- 11) 環境を整える(騒音、温度、光)
- 12) 患者に理解できる言葉
- 13) 患者の名前を覚える
- 14) 指示メモをとる
- 15) ボディメカニクスを利用する
- 16) 汚職しない
- 17) スキンシップを用いる
- 18) 回復障害行為、他者への迷惑行為は止めるよう納得させる
- 19) 後輩を教育する
- 20) 処置中はカーテンを引き、汚物吐物はすばやい処理をする
- 21) 患者にかかわる会話を大声でしない
- 22) 疼痛を緩和する
- 23) 集団の疎外から患者を保護する
- 24) 医療ミスをしない

D. の枠内のキーワードは、看護技術上で重要な行動と言えそうなものです。あなたが看護職を行って、最も重要に思えるものから順に番号を記入してください。

点10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	

この範疇に適切と思われる他の言葉を思いつかれたら下の四角内に入れ、重要さの順番を書いて下さい。

Table 1: A Part of Questionnaire and Allotments to Selected Key Word

NOTE. The most important key word was allotted 10 points, the second was 9 points and so on. Every point of each key word was processed in two databases for nurses and students, respectively.

1番から24番の各キーワードの得点を看護師または学生の2種類にデータベース化した。このアンケートの集計を本学の看護学科1年の集団と臨床経験が1年を越えた看護師、すなわち2年目ないし3年目の看護師集団について比較検討した。まず学生集団での各キーワードの平均得点と、看護師集団の各キーワードの平均得点を比較しグラフ化した。これらには「技術指数」と略名をつけた。さらに、学生と看護師で変化が大きいものを散布図で表した。これらの操作には表計算と画像処理のコンピューター・ソフトを用いた。

結果

1) アンケート回答数と新たなキーワードの収集

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職1年目の看護師からの回答は30通であった。しかし彼女たちは、看護経験がまだ4カ月目であったため今回の結果には含めなかった。この30通の回答は、将来、学生から看護師への過渡期の分析に有用と考えている。一方、本学看護学科1年生からの回答は22通であった。少数ではあるが、新しいキーワードを加えるなど深く考察している所見はあった。

技術の項目に適當と考える新たなキーワードを記載した看護師は無く、学生も無かった。しかし、本報告には含めていない就職1年目の看護師の1人が「患者に個別の行動がとれる」を1位に入れ、もう1人が順位は入れていないが、「事務は素早く」と書いていた。これらの表現法は後の参考としたい貢献である。

2) 24キーワードの学生と看護師からの得点と平均値

1番から24番の各キーワードの得点はデータベース化されて集計された。その途中の過程の例を示す(表2)。この表はデータベースよりキーワード10番を抽出し、得点を見たものである。看護師番号の最初の数字が2の者は2年目の看護師を示し、3の者は3年目の看護師を示す。10番のキーワードは「椅子にすわって(目の高さで)話す」である。表の次の列は各看護師の配点で、2点から10点まで分布している。キーワードは24個あり、表の看護師9人以外は10番を選ばなかった所以他们は抽出されない。以下の列は総得点の59と総点59を全看護師回答数の36で除して平均した値の1.638であり、「看護師技術指数」としている。学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生技術指数」を求めた。看護師と学生の各キーワードの技術指数を

グラフ化したものを示す(図1)。図を見ると9、24、4、3、7、5、11、12のキーワードは看護師による配点が高い。これらは、患者を(こまやかに)観察する、医療ミスをしな、患者を見て(目を見て)話す、了解なしの行為をしな、業務進行を二義的に、患者第一にする、対話する、環境を整える(騒音、温度、光)、患者に理解できる言葉で話す、に各々相当する。一方、9、24、6、4、11番のキーワードは学生の配点が高く、これらは、患者を(こまやかに)観察する、医療ミスをしな、感染予防、患者を見て(目を見て)話す、環境を整える(騒音、温度、光)、であった。1位と2位は学生と看護師で同じ順番である。

3) 看護師の社会指数と学生の技術指数の比較

次に、各キーワードの「看護師技術指数」を「学生技術指数」で除した値を求めた。この操作により、学生から看護師になった後の価値観の変化が想像できる。その結果を図2に示す。この範疇は以前の報告に比べ、学生と看護師の価値観の差が少ないように思われる。図2の縦軸は「看護師技術指数」/「学生技術指数」で横軸はキーワード番号である。これをみると、変化が大きいものは順に、22、7、3、1番となり、それぞれ疼痛を緩和する、業務進行を二義的に、患者第一にする、了解なしの行為をしな、非マニュアル的対応をするであった。反対に学生において価値が高かったものは、23、14、6であった。これらは順に、集団の疎外から患者を保護する、指示メモをとる、感染予防、である。

4) 得点が高くかつ価値観の差が大きいキーワード

価値の変化の大きいものが必ずしも重要なキーワードとは限らない。その理由は、「看護師技術指数」/「学生技術指数」の比率は高くても看護師と学生の配点が共に低い場合もあるからである。そこで各値の組みで散布図を描き、看護師と学生の配点が目に見えるようにした。図3はその散布図で、縦軸が看護師技術指数、横軸が学生技術指数、ななめに引いた直線は「看護師技術指数」=「学生技術指数」の線である。この直線より上の点は学生に比べ看護師がより重要と考えるキーワードを示し、下の点は看護師に比べ学生がより重要と考えるキーワードを示す。また「看護師技術指数」=「学生技術指数」の線から離れるほど看護師と学生の価値観の差が大きいものとなる。これを見ると22番の、疼痛を緩和する、が学生点が1.18で看護師点が2.86で比が2.42と最も大きいが中程度の得点

である。7番の、業務進行を二義的には双方の得点が大きくかつ比も大きいもので、学生点が2.04、看護師点が3.77で比は1.84である。3番の、了解なしの行為をしないも得点が高く、学生が2.77、看護師が4.05で比が1.44であった。図で明らかのように、6番の感染予防は得点が非常に高く、かつ、補助線からの下方変

位も大きい。学生と看護師双方が重視するもので、学生がさらに高く評価する項目であることがわかる。表3の数値を見ると参考となるが、23番の集団の疎外から患者を守る、は相対的に学生が重視するものの、学生、看護師双方の配点が低いものである。

表2. データベースから抽出されたキーワード20のコンピューター画面

看護師番号	項目番号	得点	総得点	看護師技術指数
2006	10	10		
2010	10	8		
2012	10	9		
2014	10	8		
2015	10	2		
3003	10	3		
3008	10	3		
3010	10	9		
3012	10	7	59	1.63888889

Table 2: A Search Result for 10th Key Word from Nurses' Data Base

NOTE. The first column is identification number of nurses who experienced for 2 or 3 years. The 10 in second column is a key word number which indicates "to talk with a patient, sitting on the chair and/or before his eyes". The 3rd column is points obtained by 10th key word which distribute from 3 to 10 in accord with estimation by each nurse. The 59 in 4th column is the total sum of points obtained by the 10th key word. The fifth column is the mean value of the key word.

図1. 看護師と学生それぞれで24個のキーワードが得た平均技術指数

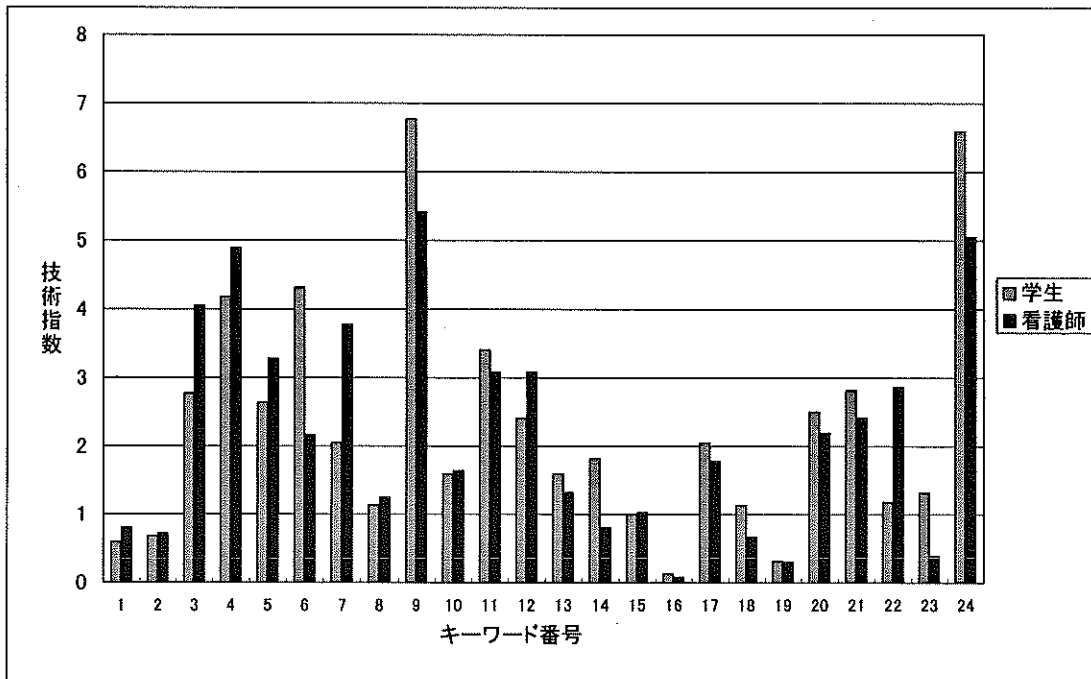


Figure 1: Comparison of the student's mean skill index (□) with nurse's mean skill index (■) of each 24 key words.
NOTE. Total sum of points obtained by each key word among nurse group or student group was divided by total number of nurses and students, respectively, which termed skill index. The 9, 24, 4, 3, 7, 5, 11 and 12th key words had high value among nurses. These are "intensive observation of the patients", "to avoid nursing malpractice", "to look at patient's eyes during talk", "to follow the informed consent", "patient's care should be taken precedence over anything", "to converse with patients", "to keep good environment", "to talk with simple and understandable words with patient", respectively.

図2. 各キーワードの [看護師指数] / [学生指数]

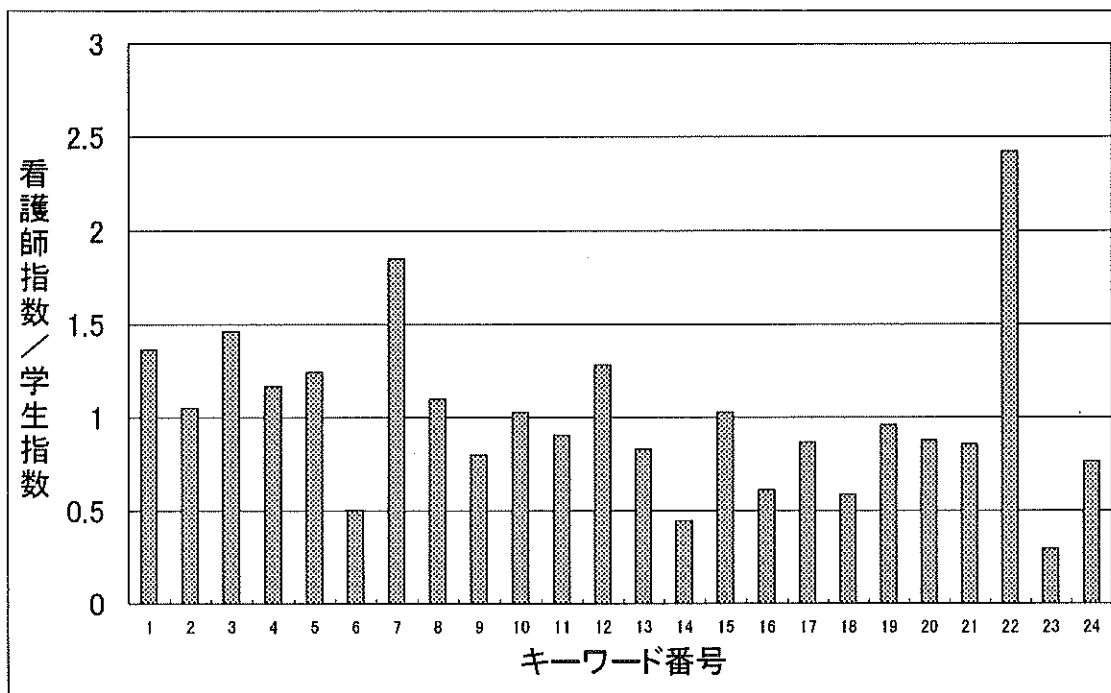


Figure 2: [nurse's skill index] / [student's skill index] ratio of each 24 key word.

NOTE. This shows the changes of estimation for the social life by students and nurses. The 22nd, 7th, 3rd, 1st, key words had highly evaluated by nurses in comparison with the students. These are "easing the pain", "patient's care should be taken precedence over anything", "to follow the informed consent", "to cope with patient's personality", in this order.

図3. 技術指数の看護師と学生の散布図

ななめに引いた直線は [看護師技術指数] = [学生技術指数] の線。

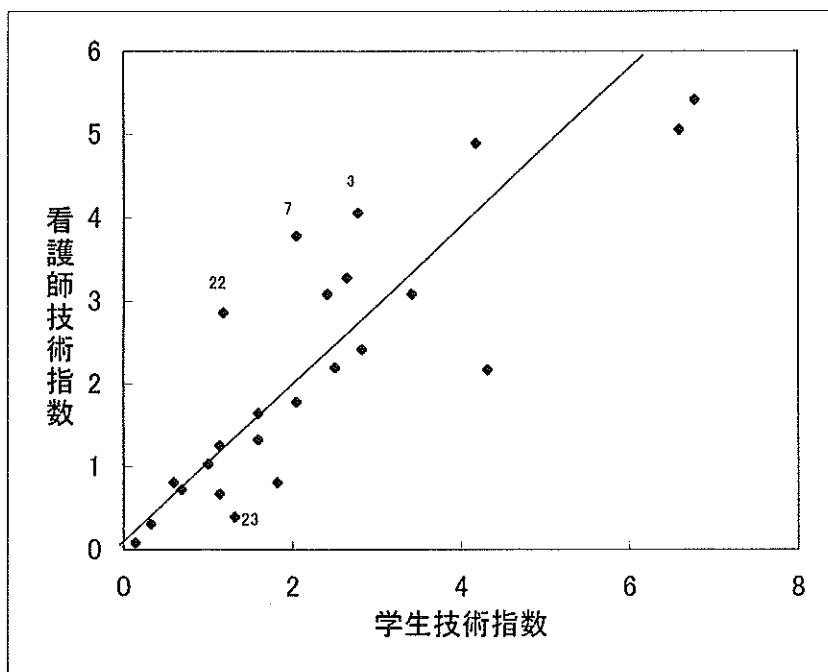


Figure 3: Relationship of the estimation of the skill between nurses and student displayed in scattered pattern.

NOTE. The line in the figure indicates [nurse's social life index] = [student's social life index]. The 7th, and 3rd, key words had higher value among nurses than among students. These two key words obtained relatively high score both from nurses and students. These are "patient's care takes precedence over anything", "to follow the informed consent". On the contrary, "to protect patient from other's estrangement" of the 23rd word obtained much higher score from students than from nurses.

表3. アンケートの看護技術の部分で得られた全てのデータ

キーワード番号	内容	学生技術指数	看護技術指数	技術変化指数
1	非マニュアル的対応をする	0.590909091	0.805555556	1.363247863
2	金品を受けない	0.681818182	0.717948718	1.052991453
3	了解なしの行為をしない	2.772727273	4.055555556	1.462659381
4	患者を見て(目を見て)話す	4.181818182	4.888888889	1.169082126
5	対話する	2.636363636	3.277777778	1.243295019
6	感染予防	4.318181818	2.166666667	0.501754386
7	業務進行を二義的に(患者第一)	2.045454545	3.777777778	1.84691358
8	ナースコールに答える	1.136363636	1.25	1.1
9	患者を(こまやかに)観察する	6.772727273	5.416666667	0.799776286
10	椅子に座って話す(目の高さ)	1.590909091	1.638888889	1.03015873
11	環境を整える(騒音、温度、光)	3.409090909	3.083333333	0.904444444
12	患者に理解できる言葉	2.409090909	3.083333333	1.279874214
13	患者の名前を覚える	1.590909091	1.321428571	0.830612245
14	指示メモをとる	1.818181818	0.805555556	0.443055556
15	ボディメカニクスを利用する	1	1.027777778	1.027777778
16	汚職しない	0.136363636	0.083333333	0.611111111
17	スキンシップを用いる	2.045454545	1.777777778	0.869135802
18	回復障害、他者迷惑行為を止める	1.136363636	0.666666667	0.586666667
19	後輩を教育する	0.318181818	0.305555556	0.96031746
20	処置中羞恥心の尊重	2.5	2.194444444	0.877777778
21	患者関係の会話を大声でしない	2.818181818	2.416666667	0.857526882
22	疼痛を緩和する	1.181818182	2.861111111	2.420940171
23	集団の疎外から患者を保護する	1.318181818	0.388888889	0.295019157
24	医療ミスをしない	6.590909091	5.055555556	0.767049808

Table3: All of The Data Obtained from Questionnaire to Students and Nurses

NOTE. The first column is the number of the key words, second column is the indicated concept, the 3rd is the student's skill index, 4th is the nurse's skill index, the 5th column is the ratio of the indexes.

考察

初回の報告1)では学生の71レポートでの各キーワードの出現頻度をみた。レポート中で出現頻度の多かった技術項目は、1番の非マニュアル的対応をする、5番の対話する、6番の感染予防、9番の患者を細やかに観察する、11番の環境整備などであった。これらに相当する今回の学生の指数は、それぞれ0.59、2.63、4.31、6.77、3.41であった。得点の低い1番は、最初の語句抽出時、多くは「個々人に合わせた対応」としていた。しかし、その中に含まれて同義と思われた「非マニュアル的対応」としてアンケートをとったため、回答者に意味が伝わりにくく、配点が低かったものと思われる。この結果に基き、将来計画される研究では「個々人に合わせた対応」として質問紙を作成すべきと考えた。1番以外は出現頻度と得点がほとんど並行することがわかり、意味が理解できる語句は順当に配点されると考えられる。従って、この報告による計数法は、学生レポート中の言葉の出現頻度と殆ど平行する結果を導くことが予想され、高い得点を得たキ

ワードは真性のキーワードとなる可能性が高い。

「看護師技術指数」と「学生技術指数」の散布図から、看護師を2から3年経験すると、疼痛を緩和する、業務進行を二義的にして患者第一にする、了解無しの行為をしない、非マニュアル的対応をする、などが重視されてくるのがわかる。非マニュアル的対応をする、は学生と看護師共に配点は低いが看護師がより重視する技術である。業務進行を二義的にして患者第一にする、了解無しの行為をしない、は学生でもそれぞれ高い得点であり、学生に重要性は理解されているものの看護師との価値観の差は大きい。これらは大学教育の中で強調されるべきであろう。

学生が看護師に比べ相対的に非常に高配点した、集団の疎外から患者を守る、はどう解釈されるであろうか。おそらく、臨床現場で特定の患者が疎外される例が少ないことを看護師は体験しているが、学生は健康な集団の中での体験より類推して重視したのではないだろうか。

この研究は、学生と看護師には価値観の差があることを仮定し、その価値観の差を教育に反映することで、

学生がより現場感覚を獲得することを目的としている。そして過去の4報により確実に各カテゴリーにおいて両者に価値観の差があることが証明され、差の理由づけも行ってきた。これらを基礎として、確固とした価値観に基づいた教育を行うことが将来の夢である。さらに、この一連の研究により、看護師と学生の回答より重要で真正のキーワードが抽出されれば、それらによる新しい質問表の作成が可能となり、総合的で緻密な看護職の分析が計画できるようになる。その質問紙はこの研究で用いられたものよりも整然としたものとなり、回答者によく理解できたうえでの回答が得られるであろう。将来の新たな研究により、他の職種と異なり、くっきりと輪郭された理念のもとで看護業務が遂行されるようになるのがもう一つの夢である。

以上、看護技術のカテゴリーに分類された項目について、看護学生と看護師の相違とその意味について報告した。次の第6報は看護職の専門倫理的な態度・行動に関する語句の分析となる予定である。

謝辞

この研究は、2000年度西南女学院大学共同研究費「西南女学院大学保健福祉学部看護学科卒業生の実態調査」の助成の一部を受け始められた。

文献

- 1) 工藤 二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティ：看護大学生は看護職をどのよ

うにとらえているか. 西南女学院大学紀要. 5 : 1-8, 2001

- 2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その2：看護の資質についての大学生から看護婦への価値観の変容とその意味. 西南女学院大学紀要. 6 : 10-17, 2002
- 3) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その3：看護の行動パターンについての大学生から看護婦への価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 7 : 19-26, 2003
- 4) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その4：看護職に重要な社会生活パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味. 西南女学院大学紀要. 8 : , 2004
- 5) 波多野梗子、小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化. 日本看護研究学会雑誌. 16(4) : 21-28, 1993
- 6) 河津芳子、任和子：看護婦に求められる資質：一般人、医師、看護婦、看護教師への意識調査をふまえて. 日本看護医療学会雑誌. 2 : 9-15, 2000
- 7) 石田貞代、関根龍子、望月好子、塚本博子：看護職の職業アイデンティティに関連する研究. 静岡県立大学短期大学部研究紀要. 13-2 : 13-19, 1999
- 8) 島田美鈴：看護職アイデンティティの構造に関する研究. 常磐大学大学院人間科学研究科、人間学専攻修士論文. 1-142, 1998

Identity of Nursing: Implications for Different Estimates of Nursing Techniques between Students and Nurses (Part 5)

Jiro Kudo*, Hideko Oda*, Keiko Kubota**, Nariko Chuman**

<Abstract>

It is an urgent necessity for the Japanese nursing colleges to establish the identity of nursing based on which students are taught. Students can establish their identity during the course of nursing education.

We previously showed the difference of estimation on three categories, endowments, personal behavior and patterns of social life concerning identity of nursing between university students and nurses for the purpose of nursing education. In this report, we show the difference of the estimation on 24 key words concerning with skills relating the nursing profession. We have made comparison between nurses graduated from our university and students in nursing course of the 1st grade.

The most important key word they selected was allotted 10 points, the second was 9 points and so on, then every point of each key word was processed in two data bases for nurses and students, respectively. The total point obtained by each key word were divided by the number of nurses and students, respectively, which termed mean skill index. To show the difference of estimation between students and nurses, the ratio of [nurse's skill index] / [student's skill index] of each 24 key word was calculated. The key words which had higher value among nurses than students were "easing the pain", "patient's care should be taken precedence over anything", "to follow the informed consent", "to cope with patient's personality", in this order.

Two key words, "patient's care takes precedence over anything" and "to follow the informed consent" obtained relatively high score from both nurses and students and much higher score from nurses. These are. A word which is "to protect patient from other's estrangement" obtained much higher score from students than from nurses.

The key words highly evaluated by nurses, "intensive observation of the patients", "to avoid nursing malpractice", "to look at patient's eyes during talk", "to follow the informed consent", "patient's care should be taken precedence over anything", "to converse with patients", "to keep good environment", "to talk with simple and understandable words with patient" were considered to be important for making curriculum of the university students.

Key words : identity, nursing education, university students in nursing course, nursing skill, curriculum
Running title : Identity of Nursing, 5th Report

* Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

** Associate Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University